令和6年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

令和6年4月1日～令和7年3月31日

加西市教育委員会

加西市教育委員会評価委員会

令和6年度 加西市教育委員会点検評価 総括表

「令和6年度教育の重点」の中から点検評価の取組項目として採用したのは以下のとおりです。

番号	取組項目	担当課の 達成評価
1	① 保育教諭の確保により、0～2歳児の受け皿及び一時預かりや広場事業を充実させます。	3
	② 園職員と小学校教員の合同研修・研究を実施し、指導者間での共通理解と情報交換を行います。	3
	③ 放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。	3
2	① きめ細やかで弾力的な指導により、学習の基礎となる資質・能力を育成する「加西BASE」を推進します。	4
	② 魅力ある加西の教育の実現を目指し、新しい時代に対応した次世代型3C人材の育成を目指した「加西STEAM」を推進します。	4
	③ コミュニケーションを通してお互いを尊重しあい、地域や国の境界を超えて、広い視野をもって多様な他者と交流できるマインドやスキルを持つグローバル人材を育成する「加西GLOBAL」を推進します。	5
3	① 学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して、健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	3
	② 児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	4
4	① 喫緊の課題や新しい教育への対応等、教職員のニーズに応じた研修を充実し、教職員の指導力の向上をめざします。	4
	② 学校・家庭・地域・関係機関の連携を強化し、いじめの未然防止、いじめ問題への対応を迅速かつ組織的にを行います。	3
	③ 校内の組織体制を整備し、保護者と課題意識を共有して、不登校児童生徒の状況に応じた適切な支援を行います。	3
5	① 「人生100年時代」を見据えた学びを推進するため、市民や時代のニーズを的確に把握し、地域や学校、企業等とも連携した多様な学びの機会を提供します。また、オークタウン加西では野外活動を中心に様々な体験ができる講座を開催します。	4
	② 地域からの要望と登録グループを“つなぐ”ことにより「公民館まちづくり出前講座」の活動を推進し、学びの成果を地域に還元できる人材の育成、地域づくりに活用できるよう取り組みます。	3
	③ 「歴史文化遺産を活かした地域の活動や、地域で大切に守り伝えられてきた伝統文化、伝統行事に関する活動、保存継承に対する支援を実施します。	3
6	① 図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。	3
	② 市立図書館と学校図書館とが連携し、子どもの読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。	4
	③ 電子書籍資料の充実を図り、電子図書館利用サービスの普及促進に努めます。	3
7	① 児童が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	4
	② 生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	4

番 号	1	所属課	こども未来課	
基本方針	幼児期の子育て支援の充実			
取組項目				
①	保育教諭の確保により、0～2歳児の受け皿及び一時預かりや広場事業を充実させます。			
②	園職員と小学校教員の合同研修・研究を実施し、指導者間での共通理解と情報交換を行います。			
③	放課後に小学校の余剰教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭の求人活動を積極的に行うことで、採用を増やし、安定した保育体制を整える。 ・親子の交流の場としての機能を強化し、育児相談やイベントの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に求人活動を行ったり、職場環境のアンケート調査を実施し、働きやすい環境づくりに努め、離職率の低減に寄与。 ・児童療育室と連携し、育児相談を充実させ、イベントや内容等については、工夫を凝らして開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き多様な媒体の活用等による積極的な求人活動を行っていく。 ・健康課との連携が密になり子育てに関する相談、援助がスムーズになり、イベント等の内容も充実し、好評を得ている。 	3
②	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前と就学後の発達や学びの違いを共有し、連携を強化する。 ・小学校入学前の交流活動（就学前訪問・体験入学）を充実させる。 ・特別な支援が必要な子どもへの対応について園と小学校で情報を共有し、継続的な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員が、こども園での遊びの様子を観察し、幼児の学びが小学校の学習にどのように繋がるか理解を深めた。 ・こども園年長児と1年生の交流会を年数回開催。 ・子どもや保護者が、事前に小学校、支援学級の見学体験を行うことで、環境の変化による負担感の軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園の遊びが幼児の学びにどのように寄与しているかを学校教員に実感してもらえたことは大きな成果となった。 ・今後も定期的な交流を行い保育と学校教育のスムーズな連携の実現を図る。 ・事前に見学体験することで、子どもだけではなく保護者の不安も軽減し、スムーズな入学や支援体制につながっている。 	3
③	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が放課後を安全に過ごせる環境を整備し、共働き世帯などの保護者の就労を支援する。 ・児童が主体的に遊びや活動を選択できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援員数を確保し、入園を希望する低学年児童はほぼ受け入れることができた。4年生以上の児童については、一部施設の面積等の要件もあり、受け入れ保留となった児童が生じたため、今後の検討が必要。 ・学童退園後には、子どもたちが家庭で自立した生活を送ることができるよう、自ら考え動く場面を大切にするような支援を、研修の場等を通じて周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員については職場環境・人間関係による離職者も減り、安定しているため、今後も継続できるよう努め、施設整備については学校施設の活用など可能な対応を行う。 ・R7年度の国の放課後児童クラブ運営指針の改定に向け、子どもたちの主体性を重んじた運営をより実践的に行っていく土台づくりができた。 	3
教育委員 評価コメント				
働きやすい環境とは、幼・小学習をどう理解できたのか研修をしてどうだったのか、目標が達成できたと評価になっているが、具体的にどのように成果が出たのか検証を行う必要がある。				

番 号	2	所属課	学校教育課	
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目				
①	きめ細やかで弾力的な指導により、学習の基礎となる資質・能力を育成する「加西BASE」を推進します。			
②	魅力ある加西の教育の実現を目指し、新しい時代に対応した次世代型 3 C人材の育成を目指した「加西STEAM」を推進します。			
③	コミュニケーションを通してお互いを尊重しあい、地域や国の境界を超えて、広い視野をもって多様な他者と交流できるマインドやスキルを持つグローバル人材を育成する「加西GLOBAL」を推進します。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の定める学力に基づき、「勉強が分かる」「勉強が面白い」と思える授業づくりを推進する。 全国学力学習状況調査の結果等の考察に基づき、授業改善や授業力の向上を支援し、児童生徒の確かな学力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上アドバイザー、外国語教育アドバイザー、特別支援教育アドバイザーを新たに任用し、各校に派遣することで授業づくりの推進を図った。 全国学力学習状況調査結果を丁寧に分析し、1月の加西っ子学びセミナーの場で各校担当者に伝達した。合わせて、各校の授業改善・授業力向上のための校内研究会等に指導主事を派遣し、指導助言を行うことで児童生徒の学力育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に、授業力向上アドバイザーの派遣によって、若手教員に限らずそれぞれの世代の教員が授業づくりに取り組めた。また、外国語教育アドバイザーの活動によって、小学校外国語専科教員の研修機会が増え、授業力向上に大きくつながった。 多くの学校で、校内研修に講師を招聘する機会が増え、授業力向上の雰囲気醸成しつつある。 	4
②	<ul style="list-style-type: none"> 本物に触れ、心を動かす体験をととして、「知りたい」「創りたい」といった、児童生徒の探究心を培う。 地域の資源や人材を積極的に活用し、各校の特色ある取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、9月に世界的な指揮者の西本智実氏を招聘し、九会小学校の5・6年生を対象に体験型の音楽指導を行った。 学校づくり×STEAM推進事業やSTEAMプログラム、ひょうごテック事業などを活用し、多くの地域人材や関係機関からゲストティーチャーを招くことで特色ある取組を促進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 西本智実氏の招聘によって、単にプロの音楽家としてではなく、本物の芸術に触れる貴重な体験ができた。 STEAMプログラムの活用はかなり定着しつつあり、内容も精選されて効果的な取組になっている。また、ひょうごテックの活用によって、これまで体験したことのないプログラムを通して、児童生徒の探究心を育むことができた。 	4
③	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫した外国語（英語）教育の充実を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成する。 英語検定や英検IBA、イングリッシュキャンプなどとおして児童生徒の英語力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校外国語専科教員を対象にしたジョリーフォニックス研修や、田尻五郎氏を招聘した小中英語担当者対象の教師力向上研修会を行った。 これまで中学1・2年生だけを対象に行っていた英検IBAを、小学6年生にも拡大して実施した。また、今年度初めて8月にイングリッシュキャンプ（4泊5日）をオークタウン加西で実施し、29名の小中学生が参加できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな研修の機会を数多く実施できたことで、これまで自己研修に委ねていた部分を系統的で効果の高い研修として実施できた。 イングリッシュキャンプは初めての試みでもあり試行錯誤の部分があったが、成果と課題を整理し、次年度以降は形を変えたイングリッシュミーツを計画している。 	5
教育委員 評価コメント				
<p>教育とは、人と人の関係性が大切であり、柔軟性が必要である。</p> <p>人材育成に対しては、子ども達の新しい試みによって、脳に刺激を与え、学校全体の活性化が溢れるだろう。教職員の教師力向上はどんどん進んでいく事と信じている。</p>				

番 号	3	所属課	教育総務課	
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目				
①	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して、健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。			
②	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。			
③				
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
	取組目標	実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消による市内産食材の使用量を拡大し、学校給食を軸とした食育の取組を推進する。 ・長期休業期間を利用して、調理員に対する研修を行い、衛生管理をより一層徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内産の食材の使用量を増やすため、地元産の新しい食材の開拓とそれを使ったメニューの開発や市内産の有機米の給食を実施し、令和6年度における1人あたりの市内産食材の使用量は16.9kgであった。（令和5年度17.4kg） ・栄養教諭を講師とした衛生管理研修会を実施し、同じ調理場で仕事をしている者同士、見識を深めるとともに情報交換を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛菜館や市内生産者から地元産野菜を購入しているが、天候により収穫量が左右されることも多く、給食食材の安定供給に課題が残った。今後、安定して供給してもらえる方法を考えていかなければならない。 ・調理員に対する研修を充実させることができ、衛生管理、給食の質の向上につながった。今後、さらなる栄養・食育指導の充実に努め、児童生徒の食に対する関心・意欲を一層高めていく必要がある。 	3
②	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事を計画的に実施していくとともに、教材備品の整備充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習環境の整備として、校舎の照明器具のLED化工事や体育館トイレの洋式化工事を実施するとともに、学校が要望する管理備品や振興備品の購入を順次行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・照明器具のLED化工事及び体育館のトイレ洋式化工事は夏季休業期間を活用して計画どおり実施した。今後は学校再編に併せて実施校を検討する必要がある。 ・学校の要望に応じて、補助金等を活用しながら必要な備品を購入した。今後は学校再編を念頭におきながら、計画的な備品整備に努めたい。 	4
③				
教育委員 評価コメント				
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食においては、天候不順や物価高騰により安定した食材の確保にご苦労いただいている。 ・児童生徒にはその部分も含めて、食のありがたさや大切さについて指導いただければありがたい。 ・学校設備や備品の整備については、学校再編をにらみながらも、一方で閉校後も用途変更や避難場所として使う施設等もあるので、引き続き計画的な整備をお願いする。 				

番 号	4	所属課	総合教育センター	
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目				
①	喫緊の課題や新しい教育への対応等、教職員のニーズに応じた研修を充実し、教職員の指導力の向上をめざします。			
②	学校・家庭・地域・関係機関の連携を強化し、いじめの未然防止、いじめ問題への対応を迅速かつ組織的に行います。			
③	校内の組織体制を整備し、保護者と課題意識を共有して、不登校児童生徒の状況に応じた適切な支援を行います。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果から学校現場のニーズを考慮して計画する。実施にあたっては、時期や日程に配慮し、小・中・特別支援学校教職員はもちろん、公立だけでなく私立を含めたこども園教職員等も参加できるようにする。 ・受講者や学校（園）現場のニーズに適合し、教育（保育）実践に有益な研修講座を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果を十分に考慮し40講座を開設した。1講座が台風の影響で中止となったが、39講座が実施でき、受講者の延べ人数は1,445人であった。教育講演会では、喫緊の課題である不登校対策について、市内全教職員で共通理解が行えた。 ・受講者によるアンケートの教育（保育）実践に有益であったかの評価点の平均値は、5点満点の4.65であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座によって受講者数やアンケート結果にばらつきがあり、平均値が3点台のものから4点代後半のものまでであった。ニーズに応えられた講座からそうでない講座もあったことがうかがえる。 ・課題としては、講座内容や講師の精選と研修時期、開催方法を工夫し、より実効性のある研修講座にすることである。 	4
②	<ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会、定例教頭会や学校・警察・総合教育センター連絡会等において、「いじめの定義」について確認し、「いじめ見逃しゼロ」を目標に積極的認知に努める。また、いじめ対応加西市ネットワーク会議において、事例を通してOJT研修を行う。年2回加西市いじめ問題対策審議会を開催し、外部からの意見をいただき、いじめ防止の取組に生かす。 ・「いじめ防止作品展」を行い、いじめ防止の啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議にて「いじめの定義」について確認し、「いじめ見逃しゼロ」を目標に積極的認知に努めることができた。事例を通じた研修や加西市いじめ問題対策審議会での意見を学校現場に伝え、いじめ防止の取組に生かすことに努めた。 ・「いじめ防止作品展」の作品を、小学校5年生から中学校3年生に募集し、応募総数は841点であった。優秀な作品はアステアかさいのウォールギャラリーで作品展を行った後、市内全学校に持ち回り展として掲示することで、広くいじめ未然防止の啓発を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの定義」と積極的認知については学校現場にも浸透させることができた。 ・学校の統廃合や若手教職員が増える中、いじめの未然防止、早期発見、早期対応についての研修を、若手教職員に浸透させていく必要を感じる。 	3
③	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーが関係機関と連携して家庭支援の充実を図る。 ・教育支援センター「ふれあいホーム」、校内フリースクールにおける不登校生支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーが各校の不登校対策委員会に可能な限り参加し、関係機関と連携して家庭支援に努めることができた。 ・教育支援センター「ふれあいホーム」、校内フリースクールにおいて学校との連絡会、保護者連絡会を行い、支援の方針等のすりあわせが行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカーによる対応回数は増加傾向にあるが、支援につながらないケースもあることが課題である。 ・「ふれあいホーム」や校内フリースクールでいかに社会的自立に向けた支援を行うかが課題である。 	3
教育委員 評価コメント				
<p>全体的には、取組目標に対して、十分に目標を達成している。</p> <p>①研修講座の教職員アンケート結果を、今後の取組に確実に反映して頂きたい。</p> <p>②いじめ防止の取組目標に「いじめ防止作品展」の実施があるが、他の取組目標も含め、今後は、本当に目指していこうと思える価値のあるものにして頂きたい。</p> <p>③不登校の未然防止のために、保護者・学校と連携して、実質的に効果のある未然防止の取組をして頂きたい。</p>				

番 号	5	所属課	生涯学習課	
基本方針	生涯にわたる学習の充実			
取組項目				
①	「人生100年時代」を見据えた学びを推進するため、市民や時代のニーズを的確に把握し、地域や学校、企業等とも連携した多様な学びの機会を提供します。また、オークタウン加西では野外活動を中心に様々な体験ができる講座を開催します。			
②	地域からの要望と登録グループを“つなぐ”ことにより「公民館まちづくり出前講座」の活動を推進し、学びの成果を地域に還元できる人材の育成、地域づくりに活用できるよう取り組みます。			
③	「歴史文化遺産を活かした地域の活動や、地域で大切に守り伝えられてきた伝統文化、伝統行事に関する活動、保存継承に対する支援を実施します。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 2 目標をあまり達成できなかった	4 目標を達成できた 1 目標をほとんど達成できなかった	3 目標をほぼ達成できた	
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催講座等受講者を対象に、講座についての満足度調査を実施することで、市民や時代のニーズの把握に努め、多様な学びの機会の提供を推進する。 ・オークタウン加西では、施設環境を活かした体験活動が出来る講座を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連続講座40講座、単発講座9講座を実施。実施講座のうち4講座は、講座の企画を市民から募集する「公民館講座ドラフト会議」で選ばれた講座を実施した。かしの木学園受講生のアンケート調査では、89%が満足・まあ満足との回答得ており昨年度を上回った。 ・オークタウン加西では、連続講座4講座、単発講座6講座を実施、施設環境を活かし、星空観察会やアドベンチャークラブ等野外活動を5講座実施した。また、小学生から中学生を対象にした講座を4講座実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座ドラフト会議の実施により、市民に公民館講座の運営に参画してもらうことができた。ドラフト会議の講座は好評であったことから、市民のニーズを把握する手段として、今後も継続して実施していきたい。 ・オークタウンでは、公民館では実施しにくい青少年向け講座を企画し、従前より課題であった青少年教育の推進に取組むことができた。 	4
②	<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館登録グループが、学びの成果を地域に還元できるよう登録グループの活動を支援する。地域からの要望と公民館登録グループをつなぐことにより、「公民館まちづくり出前講座」に活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの制限がなくなった令和5年度の出前講座の回数は62回と、4年度と比較して3.5倍と大幅に増加したが、6年度は61回となり、前年度並みの回数であった。各館とも地元の敬老会やいきいき委員会やあったか推進からの依頼が多く、公民館活動で得た学習の成果を地域で披露、還元した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館登録グループの活動内容が地域に認知され、6年度も多数の地域の行事への参加依頼を受けた。しかし、高齢化により活動ができなくなるグループも出ていることから、登録グループの活性化が課題である。また、現在、出前講座の依頼を受けているのは芸能発表系のグループであるため、木彫りや裁縫等の技術を習得した登録グループが地域で活動できるよう検討していく必要がある。 	3
③	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの豊かな歴史、文化遺産を活かしたまちづくりを推進するため、歴史文化遺産を活かした地域の活動や、大切に守り伝えられてきた伝統文化、伝統行事に関する活動、保存継承に対する支援を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化を活かしたまちづくり補助金は、活用事業9団体、美化事業6団体の計15団体に対して補助を行った。新設の次代へつなぐ伝統文化継承事業補助金は、5団体に補助を行った。それぞれの補助金の活用についての相談も前年度と比較して増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の申請を通じて、地域の歴史文化遺産を身近に感じ、保存、継承の意識付けをすることができた。さまざまな文化財の保存活用に対する地域の困りごとは、高齢化、人口減少に起因しているものが多い。これらについては、補助金だけでは解消できないことが多いが、相談対応を丁寧にしなが、一緒に考えていく必要がある。 	3
教育委員 評価コメント				
幼小中と一緒にコミュニティを意識した活動をさらに推進して頂きたい。				

番 号	6	所属課	図書館	
基本方針	生涯にわたる学習の充実			
取組項目				
①	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。			
②	市立図書館と学校図書館とが連携し、子どもの読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。			
③	電子書籍資料の充実を図り、電子図書館利用サービスの普及促進に努めます。			
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
	取組目標	実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料を充実し、魅力あるイベントを開催することにより来館者数の増を図る。 ・利用者数・貸出冊数はコロナ以前に戻っていない。今後どのような対策を講じるべきか検討するため、コロナ禍以前と現在のデータを比較し分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数：175,899人（573人/日）（R7.2末現在） ・図書館事業実績：計150回、参加数計4,214人（R7.2末現在） ・令和元年と令和6年の比較（年齢別の利用者数と貸出冊数、年齢・曜日別の利用者数と貸出冊数の統計を使用し比較した。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数は昨年度から0.6%増加しており、一定事業の効果はあった。 ・世代ごとの利用状況の変化を分析すると、特に利用が半減している中高生世代への対応等が、検討課題として挙げられる。また、高齢者の方の利用は常に多いので、これからの時代に沿った高齢者向けの情報の提供にも努めたい。 	3
②	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園や学校からの図書館見学を受け入れ、おはなし会やブックトークなどの出前講座を実施する。 ・園・学校からの依頼による図書の団体託送サービス及び定期的な本の巡回貸出を実施する。 ・学校図書館の整理・活性化に関する相談や本の廃棄作業の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座：こども園 3回 小学校 30回 中学校 4回 ・団体貸出託送サービス：小中特別支援学校・こども園 124回 計5,421冊 ・巡回図書貸出：中学校 年3回 60冊×4校 こども園 年4回 50冊×4園 ・学校図書館相談：小中学校4校 計8回 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度を上回る実績となった。学校図書委員向けに読み聞かせのアドバイスも実施しており、校内の委員会活動へのサポートにも寄与できた。 ・学校等への託送サービスは、昨年度を上回る実績となり、連携が図られた。 ・学校図書館相談は、昨年度を上回る相談に対応し、園・学校との連携がより図られた。 	4
③	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある電子書籍資料を収集するとともに電子図書館サービスのよい点をPRするなど、多くの方に利用してもらえるよう広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み放題の電子書籍で、調べもの学習に使える図鑑や朝読にも使える短いお話の書籍を入れた。また学校でも活用していただけるよう、学校との図書館担当者に周知を図った。ほかに、図書館入口での電子図書館PR動画の放映や子どもに人気の高い電子書籍の広告をキッズコーナーに掲示し利用を促したほか、中学校で電子図書館の体験会を実施するなどPRに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館アンケートでは、電子図書館の認知度はまだまだ低いといった結果も出ているので、子どもから高齢者まで利用していただけるよう、引き続きPRに努めたい。 	3
教育委員 評価コメント				
<p>コロナによって人の考え方、生き方までもが時代の流れによって変わってきている。 図書館アンケートによって、もう一度何を求められているのかを細かく分析を続けて欲しい。 本の廃棄作業は学校以外にも市立図書館でも手伝いたい子どもたちを募ることで、本への親しみも一層高まることが期待される。</p>				

番 号	7	所属課	学校再編室	
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実			
取組項目				
①	児童が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。			
②	生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。			
③				
評価	5 目標以上の成果を得られた 4 目標を達成できた 3 目標をほぼ達成できた 2 目標をあまり達成できなかった 1 目標をほとんど達成できなかった			
取組目標		実績	自己評価	達成評価
①	<ul style="list-style-type: none"> ・泉統合小学校の開校に向けて、開校準備委員会で、保護者、地域、教職員の合意形成を図り、丁寧にする。 ・泉統合小学校のスクールバスの運行に向けて、乗降場所や時刻表の検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・泉統合小学校の開校準備委員会を6回開催し、学校名、校章、体操服を決定した。校歌については、作成者を推薦してもらい、依頼をした。 ・泉統合小学校のスクールバスについては、各小学校において保護者説明会を実施し、保護者等から意見を聴取し、乗降場所や時刻表の検討を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校名、校章、体操服の決定に関しては、児童や保護者アンケートも参考にしながら開校準備委員会において、ひとつずつ丁寧に協議決定することができた。 ・泉統合小学校のスクールバスについては、乗降場所やルート案、時刻表案を保護者等に示すことができた。引き続き開校まで丁寧にすすめていきたい。 	4
②	<ul style="list-style-type: none"> ・統合中学校の開校に向けて、保護者、地域、教職員の合意形成を図り、丁寧にすすめる。 ・中学校の統一制服を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合中学校の開校準備委員会を3回開催した。学校名の選定にあたり、公募を実施し、1次選考、2次選考を行い学校名を決定した。 ・市内中学校の統一制服の製造業者と制服のデザインを決定した。制服の決定にあたっては、アンケート調査や展示会を開催し、最終のデザインは投票により決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合中学校の学校名については、公募を実施し、開校準備委員会において、1次選考、2次選考を行い丁寧にすすめることができた。 ・制服の決定に際しても、アンケート調査や展示会の開催、また投票により制服の決定を行い、児童、保護者の意見をききながら丁寧にすすめることができた。 	4
③				
教育委員 評価コメント				
<p>・学校再編という重大な課題に対し、対象となる児童生徒はもちろん、保護者、地域住民の理解が得られ、地域の学校となるよう丁寧に取組を進めていただいている。今後、さらに具体的な実務が伴ってくると思うが、市民目線でよろしく願いたい。</p>				

総合コメント

評価委員会 渡邊委員の評価	概ね妥当
<p>令和6年度教育委員会点検評価では、「令和6年度教育の重点」に記載された全45の取組項目から、特に重要な19項目を抽出して、それぞれの「取組目標」、「実績」、「自己評価」を文章で記述したうえで、「達成評価」を5段階の数値で示す形式となっている。全体として、計画された取組目標が着実に進められており、すべての項目において3以上の達成度を得ることができたことは評価できる。それぞれの立場で取組の推進にご尽力いただいている関係各位に心から敬意を表したい。</p> <p>他方で、今回から点検評価の形式が新しくなったこともあり、若干の改善すべき点も見受けられた。特に気になったのは、各シートの「取組目標」「実績」「自己評価」の各欄において何を記述すべきかが明確になっていない箇所が見られたことである。特に「自己評価」欄の書きぶりが取組項目によってかなり異なっているので、担当部署間での意識の共有をさらにお願したい。目標に照らして何が達成され、何が課題として残されたのかを簡潔に記述することが重要であろう。</p> <p>なお、番号7の小学校及び中学校の学校再編（8頁）については、令和3年5月策定の「第3期加西市教育振興基本計画」では基本施策として明記されていない内容なので、「令和6年度教育の重点」を作成する時点で新規に取組項目を設けてもよかつたのではないかと。教育委員のコメントにもある通り、学校再編は重大な課題であり、児童生徒はもちろん、保護者や地域住民の関心が高い取組なので、今後「教育の重点」を作成する際に検討していただきたい。</p>	

評価委員会 後藤委員の評価	概ね妥当
<p>「第3期加西市教育振興基本計画」に基づいた「令和6年度教育の重点」の多岐に渡る取組の中から、19の取組項目に重点化して点検評価が行われている。取組目標をもとに実績を明記し、自己評価では、担当課の真摯な振り返りによる成果に合わせて次年度に向けた課題や改善策が的確に示され、教育委員の評価コメントも記されている。また、全体の達成評価をみると、19項目の内5が1項目、4が8項目、3が10項目と目標を達成・ほぼ達成の取組が多く、教育委員会の取組が、順調かつ着実に進捗していることが確認できた。これらのことから点検評価にかかる評価は、概ね妥当と判断する。また、令和6年度から重点化した取組について点検評価を行う様式に変更されたが、市民にとってわかりやすくなったものとする。</p> <p>学校再編・学校教育にかかる取組において、学校再編では、児童生徒・保護者・地域と十分な協議を重ね、丁寧に事業が進められ、その都度情報発信もなされており高く評価できる。さらに学校教育では、特色ある「加西BASE」「加西STEAM」「加西GLOBAL」が推進されており、高く評価できるとともに、児童生徒にとって、これからの学校再編に伴う教育環境の変化の中で、教育の質を高める重要な取組として継続してもらいたい。</p> <p>また、保育・幼児教育・社会教育・その他の学校教育の取組においても、関係機関との連携のもと子ども・保護者に寄り添った取組や利用者・地域住民とともに進める取組が、充実してきていることが確認できた。</p> <p>次年度は、「第3期加西市教育振興基本計画」の締めくり年度であり、令和6年度の成果を踏まえ、「すべての人が学び、育みあうまち」をめざした取組が、教育委員会・学校園・関係機関・家庭・地域が一体となって、より一層推進されることを期待したい。</p>	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の4段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
神戸大学大学院教授	渡邊 隆信
学識経験者	後藤 倫明